

議 事 録

会議の名称	令和4年度 第2回 愛荘町総合教育会議
開催日時	令和4年11月14日(月)午後2時30分
開催場所	愛荘町役場 秦荘庁舎 2階 大会議室
出席者	<p>【構成員】7名 町長 有村 国知 副町長 中西 功 教育長 徳田 寿 教育長職務代理者 森 秀昭 教育委員 松浦 延代 中村 由香里 黒川 泰守</p> <p>【事務局】8名 政策監(総務) 生駒 秀嘉 政策監(福祉) 森 まゆみ 教育次長 上林 市治 学校教育担当課長 山川 剛 生涯学習課長 陌間 秀介 図書館館長 三浦 寛二 給食センター所長 阪本 崇 教育振興課係長 久保 泰代</p> <p>【傍聴者】0名</p>
議事日程	協議事項 「愛荘町の今後の学力向上の取り組みについて」
作成者	教育振興課 久保 泰代
教育次長	午後2時30分 開会 ただいまから令和4年度第2回愛荘町総合教育会議を開催いたします。開会にあたりまして有村町長よりご挨拶をお願いいたします。
町長	皆様こんにちは。第2回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。また午前中の学校訪問では大変お世話になりました。今日は愛荘町の今後の学力向上の取組についてお話をいただけるということで、大変楽しみにしております。本日もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
教育次長	ありがとうございました。それでは会議の方に移りたいと思います。会議の運営につきましては、愛荘町総合教育会議設置要綱に基づいて進めてまいりたいと思います。設置要綱第4条によりまして、町長が議長になることから、会議の進行を町長にお願いしたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。
町長	それでは設置要綱に基づいて議長を進めさせていただきます。ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。 次第の2、議題の協議事項、「愛荘町の今後の学力向上の取り組みについて」にかかる意見交換です。 まずは教育振興課向角参事および愛知川小学校相田教頭より説明をしていただ

<p>教育振興課参事 愛知川小学校教頭</p>	<p>きます。よろしく申し上げます。</p> <p>「愛荘町の今後の学力向上の取り組みについて」 資料により説明</p>
<p>町長</p>	<p>ありがとうございました。それでは皆様と意見交換をしたいと思います。</p>
<p>森委員</p>	<p>学力向上というのは一朝一夕に行かない中、相田教頭のリーダーシップのもと愛知川小学校で実施されているすばらしい取組についてご説明をいただきました。</p> <p>相田教頭は分析・取組の作成等に素晴らしい力を持っておられ、秦荘西小学校と一緒に勤務した時もいろんなことをお願いして取組の形を作っていた記憶があります。</p> <p>私も退職してから9年ほどたち、改めて時間の経過を感じました。</p> <p>この中で出ておりました個人差を縮めるための方法として、自分が担任をしている際にも、隣のクラスはすごく勉強してるのになぜうちのクラスは出来ないのかと悩んだこともございますし、先輩の授業を見学したり、取組はどんなことをされているのかという事について話を伺ったりしたこともありました。</p> <p>今若い先生方がどこの学校でも多くなってきています。中堅層の先生方が少なく、その伝達方法が非常に難しいと思っています。</p> <p>その中で愛知川小学校は、たくさんの先生方がおられるのでいろんなことを勉強させてもらえると思っておりました。そのため先生方も取組等を前向きに進められているなというようなことも感じております。</p> <p>またそれを一校だけでなく、町内の全小学校に伝達していただいていることは非常にうれしい気持ちがあります。</p> <p>ただ、分析するというのは我々の時でもポイントになるのものがなく、いろんな講師の先生からお話を聞いても先進的なお話をされると、自校ではどうすればいいのかと迷うこともありました。</p> <p>そのため今回の相田先生の提案はいろいろ分析しながら、次どうするか、どうしていけるかという愛荘町としての大きな取組の一つになるだろうと思いますし、今後ますます相田先生には愛荘町でご努力いただけたらありがたいなということを思っております。</p> <p>ただ以前教育委員会でお話をしたのですが、ちょっと残念なニュースがあります。やはりトップクラスの都道府県になってくると、順位を落とすことができないため教科書から離れて授業を行い本末転倒してるといようなことがあります。この調査を始めた際にいろんな意見の中に競争ではない調査であると言われながら、それでは調査をどう生かされるんだらうかなと考えていました。おそらく順位というのは、必然的に人およびマスコミに流れた段階でつくだろうと危惧</p>

	<p>しておりました。やはりそういうプレッシャーがかかっている他府県も出てきて、問題になっています。だから先ほど説明の中にあつた長い文があつて最後に問題が出てくると読み込んでいる子、あるいはいろんな文章に慣れて読解力をどんどんつけている子どもにとっては後ろの問題を見て、こんなこと言われるのかそれでは前に戻ってというような読み方やいろんな工夫ができる部分があるのですが、一般的に教科書だけではこのような形の問題はなかなか出てこないため、試験のために問題を解く力をつけるのは邪道であると考えますが、それを授業の中に入れてみるとか、あるいは取組の一つの方法として入れてみる等必要なだろうなということを以前教育委員会の中でもさせていただきました。だから今みたいに自分がどこまで力を持っているかこれは楽しいんだ、ここまでできるようになった、というものを子どもに返すということは、非常に大事だろうなと思いますので、本当に良い取組を今日説明いただいたきなるほどと思いました。今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>小・中学校に子どもがいる保護者としてですが、見えない部分で先生方がすごく努力をして町内の子ども・生徒たちのために行っていただいているという事にあらためて感謝申し上げます。</p> <p>読書についても「読書でガチャコン」等楽しみながら、というのが一番大事だと思います。</p> <p>大人でも楽しいとのめり込みますが、1回嫌となると勉強でものめりこめないと思うので、楽しい環境を作ってください、先生たちもいろんな勉強をしていただいているという事に感謝します。</p> <p>やはり先生と生徒のコミュニケーション、こういうコロナ禍なのでなかなか会話も難しいですが、そういうことを深めていっていただけることが学力向上の近道でもあると思っております。</p> <p>以上です。ありがとうございます。</p>
黒川委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>現場の先生方の試行錯誤・ご努力ということを保護者の方が共感を持って応援して下さるように、どのようにデリバリーしていくかということも大切であると拝聴しておりました。</p>
町長	<p>ありがとうございます。</p> <p>現場の先生方がたは何もされていないのかというと、絶対そんなことはないと思いますし、今日のお話を聞いてましても、すごく考えていただいて、現実的で先が見える、夢の話じゃない、何</p>
中村委員	

町長	<p>をしたらいいのかがよくわかって、すごい楽しみだなというふうに思って聞いていました。周りの大人は結果ではないと言いながらも、何番なんだとか、何点なんだとか、その目に見える数字を意識してしまうのは仕方がないと思うのですが、それでも子どもにとって意味のあるものにしてもらいたいと思います。ただその調査をするだけ、公平にするというのも大事だと思いますけども、テストを受けたことがこの子どものためになる、テストって意外と楽しいなと思ってもらうのも一つですし、自分がこれだけ解けるようになったと喜んでもらうのも一つですし、毎年たくさんの予算をかけて行っていただいているので、それぞれの子どもにとって嫌な思い出にならないのが大事ななと思います。</p> <p>将来必ず受験等で、自分が他人と比べられるというのはありますし、練習、経験として無駄なことではないと思うので、学力云々というよりかは、経験という意味でそれを毎年繰り返してするというのは、子どもの成長にも繋がるのかなと思います。</p> <p>例えば、答えはわかっているけども記述として書けない、読めるけども漢字で書くことができない等、バランスの悪い子どもが多いように感じます。テストは書くということが大切なので、まず書ける、自分の意見を字でかける子どもを育てていかななくてはいけないと思います。</p> <p>偏差値は、個人の気質が大きく急に数値を上げるのは難しいと思うのですが、それを支える忍耐力、集中力、勉強だけでなく、何をするにしても精神的なもの、ずっと座っていることができるかとか人の話を聞くことができるかとか、そういう基本的な成長を見守ってもらえるような教育も家庭でももちろんですし、そういうものに重きを置いていくべきではないかなと思います。</p> <p>今日の学校訪問ですごくいいなと思ったのは、中学校の修学旅行で大学に行かれたとお聞きしました。今までは仕事として将来何になりたいかとか、どんな自分になりたいかと夢の教育はずっとされていましたが、その行く前の通過点として大学という現実的な行く行かない別としてそういう道があるというものを中学生のときに実際見られるというのは面白いと思いました。また小学校の、姉妹都市と校外学習で交流されるというのもいろんな人に出会う、いろんな場所知らないところへ行くのもとても大事ですけど、いろんな人と出会うことが子どもにとってはすごい大きな刺激になるのかなというので私も行ってみたいなと思いました。</p> <p>今ほどいろんなところに行ってみたいというような話をおっしゃっていただいて、それを子どもたちに機会を設けていっていただくことは非常に肝要であると、大学のことも姉妹都市の子どもとのお話もいただきました。</p> <p>まさに子育て世代であるがゆえにいろいろ理想の部分となかなか子どもはそればかりではないというところを感じながらの部分ではございますけれども大切なエッセンスを届けてくださっています。</p>
----	--

松浦委員

しっかりとそれを私たちの教育に反映できるようにしていきたいなというふうに思うものです。

愛知川小学校の取組を聞かせていただいて、素晴らしいことを行ってくださり、またそれを町内全小学校にも運用していただいているということで本当に感謝申し上げます。

私も孫がおりまして、愛知川小学校のような取組をしていただけたら、もっともっと力を伸ばしていただけるんじゃないかなという期待をしております。これからの小学校の伸びを楽しみにしております。

学力学習状況調査結果のことについて、愛荘町ではやはり記述式が全国平均を下回結果が出ているということで、文書能力に乏しい子が多いと思います。私の子どもの頃にも、周りにたくさん文書が書けない子がたくさんいて、本当に困っておりましたが、これは前から変わってないということを感じております。

学力アップを図るには、やはり読解力に尽きると思います。せっかく小学校で読書力がついたにもかかわらず、中学校に入ると読書をしなくなるということがアンケート結果からわかっていますし、中学校でも毎朝10分の読書を継続して行ったらもう少し結果が伸びるんじゃないと思います。

また愛荘の未来を築く16年計画にもありますように、読み聞かせですが、乳児・幼児・小学生・中学生の一貫の読書は、親御さんの家庭での子どもへの動機づけも必要と思います。

子どもは親の背を見て育ちますので親御さんも本好きであってほしいと思います。それにはノーメディアデーというのを設けておられますけれども、ノーメディアタイムを設けていただいて、親も子も一緒に本読みをする時間を設けたら、もっと本が好きになるんじゃないかなと思いますし、親御さんも本好きな親御さんでいて欲しいなと願っています。

今は動画の時代です。しかし昔は本とかラジオから流れる日本昔話のようなものを聞いて、次は何が起こるんだろうという発想力をつけられることがありましたが、このメディアの時代大きなマイナス点だなということをつくづく思います。

それから書くカパワーアップという問題を見せていただいて、こんなことを小学生とかがするのかと思ってびっくりしたのですが、大学入試でもあのような形態のことをやっておられまして、字数制限とかがあったら大学の入試の際も小学校・中学校と訓練・鍛錬・習慣づけされてきているので、強い子が育つだろうなと思って、そういう取組をしていただくことを楽しみにしております。

こういうことをいろいろ取り組んでいただいて、愛荘町の教育がもっと伸び伸びとなるように期待をしてお話を終わらせていただきます。

ありがとうございます。

町長

松浦委員ありがとうございます。

今、大切なことはやはり文書の読解力やそれを文字として作り上げていく構成力が必要だと思います。忍耐力がいると思いますが、それがないと先に進まないというのが今日の教育における愛荘町においてもテーマというふうにも思います。またここにいろんな経営資源、関心というところを向けていくというのが今各委員様のお話を伺っても出てくる一つのテーマかなと思いますので、その部分ちょっとフォーカスを当てていくことができれば、また次の展開もより見えるのではないかと思います。

それでは少し私からもお話しさせていただきたいと思います。

今まで3年間のクローズドだったものからより世界に社会に出ていくという局面が出て参りますのでその部分を教育現場としてもよりサポートしていったらいいと思います。先ほど中村委員からもいろんな人に出会う、また施設に出会うということもおっしゃっていただいて、私もまさにそのとおりであってそこでいろんな人に出会って初めてそういうコースがある、ルートがあるんだと知ってそれが自分のモチベーションになる、それが魂に火をつけていろんな忍耐力になる、これを何とか乗り越えてやろうという気力になる、というふうに思うのでぜひ学校現場においても社会においてもそういう学びの機会ということをつけてあげたいなというふうにも思います。

その中の出会いに仮に「有村」という町長に出会ったということがあったとするならば、それも社会の一つの出会いだというふうにお許しをいただけるのであれば、私が触れた言葉としてそれを子どもに伝えるならばですが、人生には一発逆転のやり方がある「勉強だ」という言葉に私触れたことがあって、もちろん一発逆転というのは象徴的に言ってる言葉ですが、勉強というのは森委員もおっしゃっていただいたように一朝一夕のものではありませんがこの勉強によって人生のいろんな困難ということを跳ね返せるチャンスというのがこの勉強というのにはそもそも内包されているものでございますので、センセーショナルな表現かもしれませんが勉強において点数をとってしっかりとそのセクションの中で生き残ってこそ、勝ち残ってこそ初めて自分が目指す人生を広げていけるということは、厳然たる事実ですので、その点数を取れてなかったらスタートラインに立てないということは、厳しいかもしれないけれどもそれが事実ということも保護者の方も含めてお伝えをするということが大事なこともかもしれないというふうに私は思っております。

私が教育部門に対してずっと言ってきた三つのことは、飯を食べる人間を育てること。生き物としてのスイッチを入れるということ。公益に資する生き方をたたえる。

この三つをずっと言ってきたことなんですけれども飯を食べるということのためにも、私は学力というのは絶対に必要な要素でございます。つけさせてやりたいというふうに思っております。

読解力の部分がテーマというのは先ほどちょっと冒頭にもふれさせていただきましたので、ぜひ読解力・文章力というところをテーマに当てていただければありがたいというふうに思っておりますこの部分に関しては教育長はじめ教育部門の皆様にも賛同いただいているということで注力をいただいておりますので、その点に関しては心強いというふうに思っております。

少しだけご報告をさせていただきたいものがあります。

一つは社会的全体の部分として私がすごく嬉しいなと今思っていることがあります。これは愛荘町内ということではございませんけれども、先週報道でも出ておりました半導体を日本国内において作っていくというラピダスという会社が立ち上がるということが報道されました。

これは「ビヨンド2ナノ」という微細な半導体をつくれるということでございます。報道の中にもありましたけれども、日米の半導体協議の中で80年代後半、日本は政策的にその半導体ということに縛りをつけられることになってしまって他国から後れを取ったと思います。1ナノというと10億分の1メートルということで0が9つもつくんですけれども、1ナノとは1ミリの100万分の1です。だからそういう微細のことってということで今動いてるんですけれども、日本が失われたこの20年の中において、次の時代を作っていくのは10代前半の子たちですので、彼らが社会に出て行く10年後に何とか日本という国が勝ちうる国家になって欲しいと思います。それができたならば私たちのおそらく老後も安定するでしょうし、彼らの未来ということも安定するというふうにも思いますので、今の円安や、世界の中における日本の地位、他国の方から「日本は安い」と思っているというのは、かつてを知っている私たちからすると本当にびっくりするような日常が今ありますのでそういう点では歯を食いしばるという局面にいよいよなるといふふうに思いますし、日本というのは歯を食い縛れる国家なんだろうと思いますので、大人がここでひるむことなく子どもたちにより機会を与えてやりたいなというふうに思っているのが一つでございます。

もう1点は学力と要素が違いますが、私が命をお預かりするという局面にもあるのかもしれないのでよりそれを感じるのですが、10月29日にソウルであったハロウィンで群集雪崩の大変ショックな本当に悲しい死亡事故ということで154名の方が亡くなっていますが、あのような悲しい事故があった翌日の日曜日に渋谷に若い世代が集まっているという光景を見ますと非常に寂しいなと思ったのも事実でございます。

もちろんいろんな商業があり同調圧力ということもありますが、同じ世代の方が不幸な死をされたにもかかわらず、同じ格好をしてそこに行くということが、命があるということの感謝とかおそれということに思いをいたせる日本人が随分と減ってしまっているのかなというショックを受けたのが正直な思いでもございましたし、万が一そこに行って、自分が事故に巻き込まれるようなことがあったらもしくはその警察の方とか、渋谷区の方、世の中で社会一般の方に迷惑を

副町長

かけるんじゃないのかなっていう危険予知のセンサーは、今ひとつ働いてないのかなと私事ととらえられないのかなということの、怖さもすごく感じたものでございました。社会全体としてそれを全部自粛せよということでは全くないにしても、そういうような感性を持ってる日本人っていうのが、本来もっと多かったんじゃないのかなというふうにショックを受けました。そういう点では、生き物としてのスイッチを子どもたちには教えていって欲しいと思います。自分が不幸になって自分が事故をすることによって、他の周りの人が悲しむことになるっていうことで思い出せる人間をより作っていくっていうことも社会として私らが負ってる使命であるというのを改めて思ったことでもございましたのでご報告をさせていただきます。
ありがとうございます。

先ほど向角参事と相田教頭の方からのご報告いただいた内容はそのまま進んでいくと愛荘の未来は明るいなあというふうに感じました。今日この場だけでなく保護者の方であるとか町民の皆様すべてに聞いていただいてもよい内容であったというふうに思います。

教育面からの分析や実践というのは、今ほどもされているとおりですので、私の方から教育現場ではない、町長部局の立場ということで、中長期的な視点での発言ということで発言させていただきたいと思います。

学力向上をする究極は何かというふうに考えたときに、まちの総合力の向上ではないかというふうに考えています。学校現場だけで解決できるものでもありませんし、家庭の協力も必要なんでしょうけれども、我々行政職員特に町長部局で何ができるのかというふうに考えたときに、まちの総合力というのを上げることだというふうに考えています。

これは今の愛荘町のまちの総合力がどうだということを評価するとかいうことではないので、私の感じる理想の形のようなものということでお断りをさせていただいて発言させていただきますが、例えばそのまちの総合力は一体何かと考えるときに、例えば暮らしやすさであったり、道路とか公共交通とか、社会インフラがきちんと整備されていて、それが美しく保たれているということであれば、当然そこにおのずと暮らす人の心の落ち着きであったりとか、環境の美しさを保とうという気持ちが醸成されるということもあるかと思えますし、まちのにぎわいや、活気、元気よさというものも大事でしょうし、福祉的な部分での支え合いとか助け合いがある町というのも大切な要素だというふうに思っています。
また当然なんですけど、税金を納めるとか、交通ルールとか、ごみ出しのルールとか、町で暮らす際の様々なルールを、大人も子ども一人一人がちゃんと守っているということも必要だと思います。一見この学力向上に直接関わりなさそうなことであっても、そうしたことの積み重ねというのがそのまちの総合的な力、総合力が向上するということがひいては、子どもたちの学力向上にも必ず繋がってい

	<p>くんではないかというふうに思います。</p> <p>翻って、我々町長部局の職員というのも今取り組んでます様々な施策が、子どもたちの学力向上にも繋がっていくものだというふうに信じていますので、それを信じる元で進めていきたいという自分自身の決意表明も含めて考えといえますか思いということでご発言をさせていただきます。</p>
町長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それぞれの委員の皆様、また副町長からも意見をいただきました。</p> <p>本日いただきました意見等々を十分に検討し、また今後の教育施策に反映をしていければというふうに思います。</p> <p>皆で力を合わせながら、よい愛荘町の教育を築いていきたいなと思います。</p>
教育次長	<p>それでは閉会のご挨拶をということで、教育長の方からよろしく願いいたします。</p>
徳田教育長	<p>それでは閉会の挨拶ということですが本日は日頃進行役に徹していただいております町長、副町長にも違う側面から学力向上についていろいろお聞かせいただきたいというご無理を申し上げましていろいろ語っていただきました。</p> <p>今日学校訪問もしていただき、いろんな子どもたちの姿があったと思うのですが、これからちょっと発想を変えていかななくてはいけないと思うのは、きちんと座って先生の方をしっかりと見て、話を聞いて聞くというもちろんそれは大事なことはあるのですが、やはり気になりましたのは、そうした子どもとは違う姿で、座っているけれど果たして学習課題に向き合っているのかという子どもたちの姿です。</p> <p>アメリカの話もありましたけども、この先個別最適化が進んでいきますと、先程の円卓の話ではないですが、学習の最終課題があって、そこに到達するための方法は個々人がそれぞれに考えて、そしていろんなまとめたことをグループの中で持ち寄って、そこで練り上げて自分たちなりの答えのない答えも含めて出していくという、その向き合い方とかその手段とかあるいは整理の仕方分析の仕方、そういう辺りを評価していくべきなのかなと思います。きちんと座っていると、先生の話聞いてるとかそのことだけに、目をやる時代は過ぎてきたかなというふうな気がします。</p> <p>ただ、私が担任だったらそれは許さないなというのは今日もありました。</p> <p>やはり子どもが高まりあったり、学び合ったり、集中して討論をしたりするためには、先ほどの副町長の話の中にありましたように、ルールはいると思います。そのあたりは担任がしっかり示し、そしてやがては自分たちでルールを作っていくというそういうことが必要なのかなというふうに思います。</p> <p>愛知川小学校の取り組みでは非常に先生方が細かなところまで頑張っておら</p>

れます。

基礎の部分を教師の方が示し、そして導く、やがて手を放していかれるんだろうと思います。自分たちでそのやり方も見つけ、というあたりが自主的であり、自立的であり、最後の主体的というところに向かうのかなというふうなことを思ったところであります。

本当に教師の方も一斉一律という、頭を変えないと本当に子どもにより学びを提供できないというふうなことを今日改めて思いました。

町長、副町長のお話の中にも大切な視点がありまして、今後とも教育が大事だから頑張れというふうなメッセージをいただいたというように私は思っています。

さて、私は教育長に就任させていただいた最初の総合教育会議の中で、町長はリアクティブな仕事ではなく、プロアクティブな仕事をして欲しいというように話をされました。

学力の向上というこの取組は、この全国学力・学習状況調査結果に反応して行うものでは決してありません。子どもたちが未来を切り拓いていく力として当然必要とされる力、そういうものがあるということでそれも我々公立学校の最大のミッションであるということで、向角参事の説明にありましたように、PDCAサイクルを意識して、取り組む必要があるというふうに思っています。

今プロアクティブな取組とすべく書く力に特化した取組をつくり上げようとしております。いわゆる過去問も学びのよき教材としようということでありませ

す。そして、管理職や学ぶ力推進リーダーという先生方が中心になって、縦横の連携を一層強化していこうとしています。これも町長が以前おっしゃったことですけれども、学力・学習状況調査結果の公表がすべての人を鼓舞するものであって欲しいというふうなことを話されていきました。その前段階ではありますけれども、まずは、教員相互が校種を超えて意識を共有するということが大事だと思っております。その決め手は中学校区の連携であります。愛知中学校区には以前から、県指定の事業でこれを推進するための組織がございます。秦荘中学校にも以前その組織があったわけですけれども、一時衰退をしておりまして、今年度それぞれの校園長が努力をしてそれを復活してくれました。

先般秦荘中学校の方で、教職員同士のいろんな議論がなされたところであります。この総合教育会議の中でいただいたご意見に対しましても、すべてに対して即応的に取り組みが展開できるというものではありませんし、すべてがプロアクティブに一気にいけるわけではありませんけれども、ぜひこういう場でいただいた意見をフィードバックしながら、リアクティブな取組からプロアクティブな取組へと進化させていけたらなあというふうに思っております。

そして、今後もプロアクティブな人が輝き人が育つ未来を拓く愛荘の教育となるように、皆さんのお力もいただきながら教育を展開していきたいと思っております。

教育次長	<p>ます。 本日本当に貴重なご意見いただいて、ありがとうございました。 今後ともどうぞよろしく申し上げます。</p> <p>大変ありがとうございました。 本日はこれで教育総合教育会議を終了とさせていただきます。</p> <p>午後 3 時 45 分閉会</p>
------	---